

海の安全レポート

第七管区海上保安本部
海の安全推進室
TEL093-331-6395(交通部安全対策課)

第172号 令和3年7月号



BACKNUMBER (二次元コードは右側をご利用ください。)

https://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_anken_report/

乗揚げ事故により船体が大破！！

6月には以下のような乗揚げ事故が発生しています。

船体を貫通した
消波ブロック



事例1

プレジャーボート（4名乗組み）が遊漁を終え夜間に帰港中、港の沖合に存在する消波ブロックに注意しつつ航行していた。

しばらくして、操船者は港に近づいたと思い舵を切ったところ、消波ブロックに衝突し、消波ブロックが船首を突き破り、そのまま乗揚げの事故が発生しました。

事例2

遊漁船（8名乗組み）が遊漁を終え昼間に帰港中、操船者は早朝から起きていたことや涼しい気候で居眠り状態となり、陸岸に乗揚げの事故が発生しました。

船体は、船首部に破口が生じたほか、プロペラ軸の曲損、プロペラの脱落、舵の曲損と広範囲に渡って損傷しました。

破口が生じた船首



海の事故ゼロをめざして

- ◎ 事前に危険箇所の把握と気象情報の入手で、**安全な航海計画！**
- ◎ 自身の体調管理に努め、**無理な操船はしない！**
- ◎ 発航前点検で**船体の異常を確認！**
- ◎ 洋上では**常に嚴重な見張りを徹底！**
- ◎ 万が一の遭難に備え、**連絡手段を確保！**



船長の「責任」は重大！「安全第一」で楽しい航海を！

水上オートバイ接触事故発生！！

6月には以下の水上オートバイ事故が発生しています。

事例

2隻の水上オートバイA・B（ともに2名乗組み）が並んだ状態で航行していた際、Aが進行方向に漂流物を発見し、漂流物を避けるべく左方向へ転舵しました。この時、BはAの左側を航行中で、Aの転舵に気付き、衝突を避けるために急転舵しましたが間に合わず、大きく傾斜した状態となり、その結果、Bの底部とAの左側の操縦ハンドルグリップ部が接触しました。接触の衝撃により、両船の乗船者は皆海中に転落しました。

すぐに両船の乗船者は皆救助され、このうち3名がけが等を負いましたが、幸い命に別状はありませんでした。



この事例は、他の船舶との安全な距離を保たず、急加速や急旋回等の危険な操船を行った結果、発生した事故だったと考えられます。

また、毎年一部の心無い水上オートバイ利用者による遊泳者への危険行為や騒音等による迷惑行為の苦情が寄せられています。

水上オートバイを楽しむ際は、交通ルールとマナーを守りましょう。

【水上オートバイを安全に楽しむために】

詳しくは、右の二次元コードをご利用し、「ウォーターセーフティガイド(水上オートバイ編)」をご覧ください



ウォーターセーフティガイド
(水上オートバイ編)

緊急情報配信サービス(電子メール配信サービス)

<http://www7.kaiho.mlit.go.jp/micsmail/reg/touroku.html>



新規登録・登録変更・登録解除は、上記のURL、二次元コードの案内から、指定のメールアドレスへ空メールを送信し、返信される案内メールに沿って行ってください。

灯台などで観測した気象・海象の現況、海上工事の状況などの「海の安全情報」をインターネットから提供しています。

HPへは海の安全情報で検索！

海の安全情報

検索

※海の安全情報の緊急情報配信サービスに登録すると「灯台で観測したリアルタイムな気象情報」「竜巻目撃情報・突風に関する緊急情報」「航行に支障をきたす流木などの漂流物情報」などの情報を入手することが出来ます。(登録は無料ですが、データ通信料は発生します。)